

# WORKS

Empower&Energize

No113  
2008/3

名東福祉会は名古屋市と日進市を中心に  
知的障害者を中心とする福祉活動を行っています

## 福嶋先生、これからもよろしくお願ひします

名東福祉会理事長 加藤久和

知的障害者福祉施設は「精神科医」を嘱託医としておこななければならないとある。しかし、よく考えてみればこれはおかしい。もともと医師免許なるものは特に診療科ごとに免許が下っているのではない。医師は国家資格だが、診療科は何を標榜してもよいことになっていて。例えば内科医が精神科とか神経科の看板を掲げてもとくに問題があるわけではない。そこで、嘱託医の要件について県に確認したところ、「知的障害者の診療に相当の経験を有する医師であれば精神科の医師でなくてもよい」との回答を得た。規制緩和というか、実態に合わせての改革というか、ともかく大いなる前進といえる。

レジデンス日進の利用者は地域の名医として名高い、福嶋フアミリー内科に行つて診てもらふことが多い。そうしたところから、福嶋先生（医学博士）はレジデンス日進に「ボランティア」で無料診療していただくようになった。

この先生はすごい先生だ。無料診療だけではなく、休日にはドクターズバ

ンドと称して、お医者様だけのバンドを引き連れて施設に乗り込んでくる。レジデンス日進の看護師も福嶋先生が来所されると、誠にいきがびつたりあつた看護報告を行っている。もちろん利用者は大喜びだ。大喜びなのは「バンドの先生」が来たからではない。ひとりひとりの生活の悩みを含め、利用者の健康をよくよくご存知であるから。これ以上、知的障害の本質をご存知の医師はこの地域に福嶋先生をおいて他にあるまい。

私たちは地域のお医者様でもあるし、この先生に心底惚れ込み、嘱託医になつていただきたいと思つていた。いや、実態は私たちがほんとうに頼りとする医師であつた。しかしこれまで精神科医でなければならぬとされていたので愛知県に嘱託医として登録することはできなかった。でも、どうしても福嶋先生になつていただきたいと愛知県に問い合わせたところ、そうした回答を得ることができた。ありがたなことだ。正しい願ひは通じるものだと思う。

## 福祉は生活の質を高めることとを最優先すべき

名東福祉会が最初に設立した施設は

1981年。2008年だから今年で27年になる。50代の利用者も増えてきた。

親の中に高齢者の施設を経営してほしいという人が多くなつた。現在の医療・高齢者福祉の分野の状況を考えれば、名東福祉会が直接経営を行うことは非現実的だが、利用者とその家族の生活を支援して行くという視点は捨ててはいけない。親にとつては自分の生活のありようを考えることは、同時に障害があるこどもの将来を考えることでもある。

高齢になつた家族をどのような形で支えるべきなのか、その手立ては考えておく必要がある。ありきたりの高齢者施設を企画するのではない。気軽な勉強会から始めていただきたい。例えば現在の地域にある高齢者福祉サービスを徹底的に調べる。その配置、アメニティ、利用料金、利用サービス、利用システム、職員配置、収益、設備投資などなど。また福祉制度についても。そうした勉強をしていくと、新しい名東福祉会のあるべき姿が浮かび上がってくるかもしれない。

## 療育技術の研修

かつて愛知県の福祉職員研修会ではインシデントプロセスという方法がよ

く使われた。ただこの方法は特に医学や福祉独特の研修方法ではない。一般的なビジネスの問題解決にも利用されている研修方法だ。

- 1 特定のインシデント(問題や事故)をレポーターが報告する
- 2 参加者はレポーターに追加的な質問を行って、情報収集を行う
- 3 一定の情報収集を行った後、独自の参加者が私ならこうするという方法を提案するという構造になっている。

他者が発表した解決方法を批判することは禁じられているので、自由に発表ができる。

ポイントはベストプラクティス(最も優れた実践)を選ぶことができる点だ。NHKのテレビ番組「難問解決!ご近所の底力」も基本的にはこのパターンだ。アメリカの医療分野の研修では、こうした研修方法を行うことが多い。そうしたこともあって、愛知県ではかなり以前からこの形式の研修方法が根付いている。そのことはいへん効果があったと思っている。

ただ問題もあった。ベストプラクティス選考型の研修は、参加者の技能や知識に左右される。問題解決方法を幅広く聞くという体験は、知識の幅を広げるが、もともとそうした知識は形式知(言葉にできるもの)だ。

ほんとうは暗黙知(言葉にできないような暗黙の知識)が生活支援のクオリティを左右する。

「臨床は科学的データで裏づけされたものでなければならぬ」とは行動療育センターの久野先生の口癖。真にそのとおりで科学はそうした実証データで証明されたものでなければならぬ。だが、久野先生の療育は「暗黙知」の固まりでもある。学会で報告されたデータは療育のほんの一部ではない。

全国に広がる久野先生の弟子は一流の先生ばかりだが、久野先生の講義を受けたたり本を読んだから一流になったのではない。むしろ久野先生の臨床に実際に触れて、臨床のすばらしさや奥深さに魅了された人たちだ。名著「医行動学講義ノート」も師匠と弟子の間、問答形式で話が進む。臨床場面を持つていないと話にならない。

久野先生が持つ暗黙知は弟子にならなければ伝わるものではない。ベストプラクティス選考型の研修は技術の進歩にとってプラスにはなるけれども「決定打」にはならない。やはり、徹底した療育技術の向上を求めるならば名伯楽から教えをこうことが唯一の道だ。行動療育センターができたのは奇跡ともいえる。愛知県の福祉施設の専門

家の人たちに、上級研修の場として「たけのこの家」を活用していただければと思う。

## 奈々枝日記

### コロナー解体

「愛知県コロナーを解体して地域の中で生きてゆく」

そんなメッセージが愛知県コロナーを利用して人たちに呼びかけられている。施設は家庭ではない、知的障害者は家庭的な雰囲気のもとで生活すべきだ・・・。「地域福祉」といえば誰も反対することができない雰囲気がある。

彼らや彼女たちは30年もの長い間コロナーで生活してきた。コロナーを出てケアホームに移ることについて息子に聞いてみた。

「こゝ、いいとこだがあ。」  
息子は信じられないほどの確なことでいいかえした。友達とのつきあい、親身になって世話してくれる大好きな職員、彼らはそれなりの家庭的な意識を持って生活している。先日、日進の自宅からコロナーに帰った際、あたたかい職員の出迎えてこれまでに見たことのないような笑顔を見せた。

このごろ彼らの年老いた親たちから悩みを相談されることが増えた。

「コロナーを出てケアホームを自分たちで建てるといふ。並大抵ではないわねえ。どうしてこういう子を神様は授けなさったのかねえ」

母親は力なくうなだれる。80歳を超える別の母親は言う。

「毎週日曜日にはあの子に会いに行つとる。会うたびに母さんを許してねと心の中でさぶ叫んどるけど、どうもならんわ」

年老いた親元に知的障害の人たちが帰っても、もう自ら世話をしてやれないことは明白だ。行政の担当者も親も民間福祉施設の間人もみんながわかっているのに「地域福祉」の美名の下では施設に残りたいと考えることは「悪」となる。この違和感をどうしたらわかってもらえるのだろうか。

50数年前、育成会の相談員だった山田先生が私の家に訪ねてこられた。

「表の会会員の中で母子心中してしまつた人が出た。加藤さん、あんたががんばつてこういう人がでないようにしてください」

とおっしゃった。この一言が私の一生の課題となって今日まで来た。

家庭の形が大切なのではない。支えでもらえる人がいることが地域福祉。地域で生活していても支える人がおら

ず、障害を持つ子を殺しての親子心中は、あまりにもむごく、寂しい。わが子が障害があるからこそ、その分、人にはない力が与えられている。親どうし、心を奮い立たせ、言葉だけの地域福祉ではなく、ほんとうにあの子達が幸せになれるための方法を考えよう。

## 若い力

今日は日進市に在住する若い母親グループ「ジャングルジム」の皆さんと座談会をすることになり、出かけました。お母さんたちは若くて、子どもたちは私のひ孫のような年齢です。

ひとりひとり年齢と障害の程度と今悩んでいることをお聞きしているうち、自閉症や様々な新しい病名のお子さんが出て、みんな、子育てと母親の苦しみをかかえながらがんばっておられるのだと感じました。こんなに福祉が進んだと思われるのに、50年前と変わらない気がしました。

「育児、通園、学校、兄弟の思いなどいろいろありましたが、今の悩みに振り回されないで、10年先の目標を持ちましょう。」

「社会情勢が移り行く中でみなで話し合いながら、糸口をみつけて行きましょう。」

と、私の体験をもとに話させていた

きました。

たけのこの家に通っている人が数名いて、そのこともうれしく思いました。ジャングルジムの活動と考え方は今の時代にあつた、そして前向きな姿勢が伝わってきて、核となるリーダーたちの献身的な動きがよく見えました。知的障害者の福祉にとつてとても重要な人たちが、きつとこの中から将来出てくると確信しています。

## 小島一郎の支援センター日記

### ブレずに前を向いて行きましょう

支援センターの業務で西区の桜木授産所を訪れた。大通りを菊井町一丁目まで曲がると、かなり昭和な筋が伸びている。その数本先の角に施設はある。ご馳走になったコーヒーも近隣の喫茶店からとっていたようにであるが、訪問者だけでなく近隣との関係への気遣いを感じる。

施設に入るときや、事務所で行くところとお話させていただく最中、私は「あること」が気になっていた。最後に見学させていただいたとき、それは確信に変わった。建物がメイトウ・ワーク

スそっくりなのである。

所長さんにもお聞きしたのであるが、両施設はほぼ同時期に建設されている。だから・・・と納得していいものか、それにしても・・・と言うべきなのか分らないが、コンクリート打ちっぱなしの壁面、サッシ周りや書類棚の木の色や形、それこそ玄関のスクリーン扉の色まで一緒。メイトウに17年間通い詰めている私が言うのだから間違いない。

で、私は何も、建築論を展開したいのではない。昭和57年頃、今から26年も前に（ちなみ私は中学にあがった頃か）開所された両施設は、知的障害者通所授産施設として、同じスタートを切った。それが現在、方や、マルカワ製菓の信頼を得て福祉的就労の王道を走る。方や、重度者の日中活動を追及して現在に至る。工賃も、ざくつと比べて3く5万と3千く1万である。これほどカラーが異なる、そっくりな外観の施設を目にすると感慨深い。どちらがどうと言うのではなく、何と言うか、名古屋の知的障害者福祉の歴史を感じる。

名東福祉会に就職して間もない、それこそ若い頃、私には新しい考え方やそれに基づく実践がひどく魅力的に映った。しかし、それこそ40を目前にした今、昔から変わらず積み重ねら

れてきた「もの」に魅かれる。自立支援法だ、制度改革だ、また見直しだという時代であるから余計なのかもしれないが、結局大切なのは、シンプルに、

「その施設は何をするところなのか」「その利用者は何のために施設を利用しているのか」

ということに尽きると思う。これで全てと言ってもいい。「福祉も選ばれる時代」と言われ続けているが、利用者や家族のニーズは30年前と本質的には変わっていないであろう。その言語表現や周囲の扱いが少しこまごまただけで、必要とされるサービス（この表現も少しこまごましている類ですが）も本質的には変わらないであろう。

法人機関紙の「WORKS」に加藤奈々枝会長のものに続いて私のこのブログを掲載していただいているが、ときどき編集者のいたずらで、敢えて昔と今の同じ領域の話題を並べていただいていることがあるのに、関係者はお気づきだろうか。書き手も違う、文体も違う、それこそ数十年のキャリアの差をもつ人間が同じテーマで偶然書いて、結局同じようなことを結論づける。ある意味、ここにこそ知的障害者福祉が語られる。

このまま余程の変更がなければ、各施設は事業移行していく訳だが、とに

かく「ここは何をしようとするか」「彼らは何のために来るのか」さえ抑えていれば大丈夫なのだと思う・・・それが現場的には意外に難しいのであるが。

## 医療？福祉？両方？

基本的に、入院中のヘルパー利用は認められていない。院内が完全看護の建前だからなのであるが、あまりにも現実を無視していて腹が立つ。そもそも、通院時の院内介助も対象がかなり絞られており、「移動の付き添いだけして、診察中、ヘルパーが待つてられるか！」と半ば呆れている有様なのであるが・・・。

例えば、ある筋ジスの相談者。在宅では、毎日かなりの時間数をヘルパー利用して生活を送っている。入院して、洗濯はもちろんのこと、食事どころか、熱があつて寒くて、掛布団を少し引き上げようにもままならない。忙しいのに恐縮しながらナスコールしても、看護師さんはなかなか来ない。こんな状況を見過ごす訳にもいかず、ある支援センタースタッフは、自ら休日の時間を割いて相談者を見舞ってくれた。私の携帯に届いた報告メールには、医療―福祉制度への疑問・不信・怒りが綴られていた。

救急医療の崩壊やら、医師不足やら、

いろいろ言われているし、そこに至る様々な事情があるのも分らないけど、人間の健康やら生命やらくらいは守って下さいよ、って、もう誰に向かつて言えばいいのかも分からなくなってきた。

## ご寄付ありがとうございます

平成20年1月26日～2月25日

メイトウ・ワークス	永宮賢治様	佐知輝敏様	外部
宇佐美直子様	山田辰己様		岩城正光様
山田信二様		レジデンス日進	山本明子様
	はまなす	阿部瀬理様	
天白ワークス	加島美奈様	木村正人様	
鈴木卓孝様	後藤良昭様	レジデンス日進家族会様	

## 名東福祉会のホームページ

ホームページアドレス <http://www.meito.or.jp>

### ●社会福祉法人 名東福祉会

〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納 58-4  
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004

### ●メイトウ・ワークス

〒465-0055 名古屋市名東区勢子坊 2-1303  
TEL 052(702)2863 FAX 052(701)2079

### ●天白ワークス

〒468-0023 名古屋市天白区御前場町 327  
TEL 052(804)5487 FAX 052(804)5416

### ●デイケア はまなす

〒465-0054 名古屋市名東区高針台 1-911  
TEL 052(704)7551 FAX 052(704)7552

### ●レジデンス日進・ハートフルアクト日進

〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納 58-4  
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004

### ●こいけホーム

〒465-0047 名古屋市名東区小池町 468-1  
TEL 052(777)8385 FAX 052(777)8385

### ●天白ホーム

〒468-0021 名古屋市天白区平針字大根ヶ越 141-3  
TEL 052(807)1578 FAX 052(807)1578

### ●児童行動療育センター「たけのこの家」

〒470-0124 愛知県日進市浅田町上の山 14 番3  
TEL 052-800-2203 FAX 052-880-2204

### ●メイ・グリーン

〒470-0124 日進市浅田町平池112-3